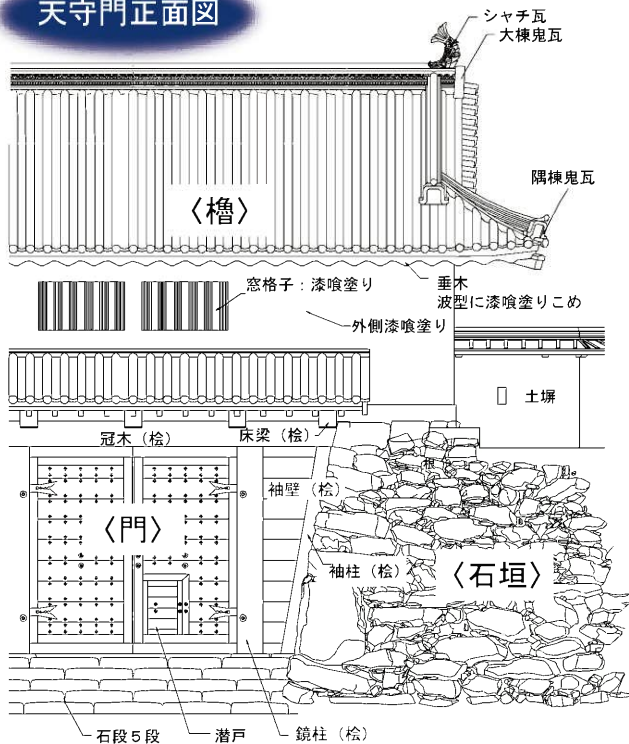


天守門の位置



天守曲輪復原図

天守門正面図



浜松城歴代城主と出世城

初代城主の家康が駿府城に入城した後、浜松城の城主は 25 代を数えました。中でも浜松城城主でいる間に老中まで出世した城主は 5 人います。

郷土の俳人、松島十湖の詠んだ俳句「はま松は出世城なり初松魚（はつがつお）」には、浜松城主が活きのよい初鯉のように出世して幕府の要職につく様が重ね合わせられます。

初鯉：初夏の季語。江戸っ子が好んだ初鯉は、鎌倉沖で取って早馬、早飛脚で生きたまま江戸まで運ばれました。

代	城主名	在城期間		転封地	備考
初	徳川家康	元亀元～天正 14	1570～1586		
城代	菅沼定政	天正 14～同 18	1586～1590		
2	堀尾吉晴	天正 18	1590～1599	富田のち松江	石垣・天守建設
3	堀尾忠氏	～慶長 5	1599～1600		
4	松平忠類	慶長 5～慶長 14	1600～1609	没収	
5	水野重仲	慶長 14～元和 5	1609～1619	新宮	
6	高力忠房	元和 5～寛永 15	1619～1638	島原	
7	松平乗寿	寛永 15～正保元	1638～1644	館林	老中
8	太田資宗	正保元	1644～1671		
9	太田資次	～延宝 6	1671～1678	大阪城代	
10	青山宗俊	延宝 6	1678～1679		
11	青山忠雄		1679～1685		
12	青山忠重	～元禄 15	1685～1702	亀山	
13	松平資俊	元禄 15	1702～1723		
14	松平資訓	～享保 14	1723～1729	吉田	
15	松平信祝	享保 1 4	1729～1744		老中
16	松平信復	～寛延 2	1744～1749	吉田	
17	松平資訓	寛延 2	1749～1752		
18	松平資昌	～宝暦 8	1752～1758	宮津	
19	井上正経	宝暦 8	1758～1766		老中
20	井上正定		1766～1786		
21	井上正甫	～文化 14	1786～1817	棚倉	
22	水野忠邦	文化 14	1817～1845		老中
23	水野忠精	～弘化 2	1845～1845	山形	後老中
24	井上正春	弘化 2	1845～1847		館林在城中老中
25	井上正直	～明治元	1847～1868	鶴舞	老中

浜松城

天守門



監修 三浦正幸 広島大学大学院教授 出世大名 家康くん

お問い合わせ先 浜松市都市整備部公園課

〒430-0923 浜松市中央区北寺島町617-6
中央土木整備事務所1階
TEL 053-457-2353 FAX 050-3535-5217

平成 24 年 10 月 第 2 版発行
(令和 6 年 1 月改訂)

浜松城の天守門とは

浜松城の中枢にあたる天守曲輪には、第二代城主、堀尾吉晴の時代に天守が建築されたといわれていますが、江戸初期には喪失しています。天守曲輪の入口に建つ「天守門」は、幕末まで維持されましたが、明治6年（1873年）に解体され、払い下げられました。

天守門は、門の上部に櫓が載る櫓門と呼ばれる建物です。櫓門は重要な曲輪の入口に建てられました。天守門のように櫓が両側の石垣上にのびる渡櫓は、石垣を多用した西日本に多く見られる形式です。石垣上からは、櫓の中に直接出入りができます。

浜松市では古絵図と発掘調査結果をもとに、平成24、25年度の2ヵ年をかけて、この天守門を原位置に復原します。

絵図に描かれた天守門



安政絵図（天守曲輪周辺を抜粋、加筆）

「安政元年（1854年）浜松城絵図」には、安政地震による浜松城の被害状況が示されており、江戸時代末期の浜松城の姿を知る重要な手がかりとなっています。

絵図には「梁二間桁六間ほどの大きさの天守門は、壁が所々潰れた（訳文）」と記載されています。櫓の壁が一部潰れたものの深刻な被害をまぬがれた事が分かります。

天守曲輪の外周をぐるりと土塀が囲んでいる様子も描かれています。

発掘調査の結果

この絵図の記載を裏付けるため、平成21年度から浜松市では天守門周辺の発掘調査を行い、建物の痕跡を調査しました。

絵図の天守門が描かれている場所からは、長軸1.0～1.4m、短軸0.9～0.7mほどの扁平な礎石が発見され、門柱の配置や門扉の大きさが確認されました。また、建物の屋根瓦やシャチ瓦の一部、土塀の瓦が多数確認されました。

門の両脇の石垣上部からは、壁からはがれ落ちた漆喰も見つかり、江戸時代の天守門の姿が明らかになりました。



出土した瓦



天守門の礎石



天守曲輪入口の石垣（門の復原前）



天守曲輪周辺の整備イメージ図